

植民地期ムハマディヤの学校教育について

利 光 正 文

はじめに

オランダの植民地期、インドネシアのイスラーム改革団体ムハマディヤは、教育活動をその重点目標の一つとした。当時、伝統的なイスラーム塾プサントレン (pesantren) のネットワークは、東部ジャワのジョンバンを拠点としてジャワ全域に広がっていた。イスラーム教徒にとって唯一の教育機関であるプサントレンは、長い伝統を有していたが、西欧式の普通教育と比較した場合、近代社会への適応という面からすれば、著しく立ち後れていた。ムハマディヤの創立者アフマド・ダフランは、ムスリム社会の近代化にとって、教育の改革は焦眉の急と考えた。彼は学校教育の重要性に着目し、西欧式の教育システムをイスラーム教育に導入しようとしたのである。

ところで、大雑把に言えば、植民地の住民に教育と福祉を施そうとするオランダの倫理政策は、20世紀の初頭より開始され、植民地統治における大きな転換点となった。教育の分野では、初等教育の充実と西欧式教育体系の確立が目指され、一部ではあるが、その恩恵に浴する者が出てきた。こうした社会的背景のもとで、ムハマディヤの教育活動が展開されたのであった。

小稿では、ムハマディヤの学校教育について、その導入過程を考察するとともに、ムハマディヤ学校の内容を検討するつもりである。

1 創立期ムハマディヤの教育活動

(1) インドネシアのイスラーム教育研究史
イスラーム教育に関する研究の最も代表的なものは、マフムド・ユヌスの『インドネシアのイスラーム教育史』(1)であろう。イスラーム教育というとプサントレンの中心地ジャワに偏りがちになるが、ユヌスの場合インドネシア全域を網羅しており、貴重な情報を数多く提供してくれる。プサントレン (ポンドック) については、最近、盛んに研究されている。特に、代表的なプサントレンに関してはフィールドワークが行われ、実態解明が進んでいる(2)。西野節男『インドネシアのイスラーム教育』(3)は、プサントレンの現状を知る上で大変役に立ち、労作である。その他、小林寧子や西村重夫の研究(4)も参考になる。尚、インドネシアの教育史全体を理解するためには、戸田金一の研究がある(5)。

(2) イスラーム改革運動とイスラーム教育
1912年、中部ジャワの古都ジョクジャカルタにおいて、K・H・アフマド・ダフランによって設立されたムハマディヤ (ムハンマドに従う者の意) は、教育の分野で大きな成功を収めた。設立当時、ムスリムにとっての唯一の教育機関はプサントレンであったが、大部分のプサントレンでは旧態依然たるイスラーム教育が行われていた。プサントレンの起源はヒンドゥ・仏教時代の学習塾マンガラ (mandala) やアシュラム (ashram) で、イスラーム教師キヤイ (kiyai) と生徒サントリ (santri) とが同一敷地内で共同生活を続け、イスラームを勉強する仕組みにな

この図のなかで、オランダ・インドネシア人学校とあるのは、オランダ語・原住民学校と同じものである。連鎖学校が日本の戦前の高等小学校にあたり、ミヨロ学校が現在の中学校、普通中学校が現在の高等学校にそれぞれ相当する。現地式教育はムラユ語で行われ、西洋式教育はオランダ語でなされている。この中でインドネシアの人々にとって最もポピュラーなのは村落学校 (Sekolah Desa) で、植民地政庁が庶民教育を村に委ねようと意図し、村が学校の建設及び維持費用を負担、政庁が教員の給料を支払う(8)、と言うシステムであつたらしい。更に、村落学校の教育内容は読書算に終始し、マレー語を教育用語として採用する方向に向かった(9)、とある。わずか3年間の課程であるが、当時の人々にとっては、画期的なものであつたと思われる。村落学校は国民学校 (Volks School) とも呼称されている。ムハマディヤの学校は図1の体系では、原地式教育と西洋式教育の両者に範を求めたわけであるが、教授用語はムラユ語とオランダ語の両方を採用しており、公立学校に歩調を合わせている。コーランのムラユ語訳、あるいはイスラーム学理解の媒体として難解なアラビア語からムラユ語への切り替えは、イスラームを一般民衆へ近づけるという点において、極めて大きな役割を果たしたと想像する。このことは、又、インドネシアのナショナリズムの観点からも重要であろう。

(2) ムハマディヤの普通教育体系

(a) 初等教育

イスラーム改革団体ムハマディヤは、小学校～大学までの一貫した教育体系の確立に力を注いだ。1925年になると、本格的な西欧式学校コーラン付 H.I.S. (Holland Inlandse School オランダ語・原住民学校) が開校される。これは7年制の小学校で、オランダ植民地政庁は既に

1914年にオランダ語・原住民学校の名称を採用しており、ヨーロッパ人小学校と同等のインドネシア人生徒のための学校であつた(10)。ムハマディヤは最初コーラン付 H.I.S. の名称を冠していたが、後にはムハマディヤ H.I.S. と改称した。最初のムハマディヤ H.I.S. は中部ジャワのスラウィ (プカロンガン州) 支部に創立され、ここでは宗教科目に加えアラビア語と英語、その他の普通科目が教授された(11)。オランダ語ではなく、何故英語が教えられたのか分らないけれども、とにかく宗教科目と普通科目の2本立てで教育された。この学校は1927年までには、ジャワで26、マカッサル (セレベス) で1の計27校が開校されている(12)。それでは、1928年に北スマトラのアチュで創立されたコーラン付 H.I.S. で使用されたカリキュラムを手がかりとして、教育内容を検討してみよう。カリキュラムは第1学年から第7学年までであるが、ここでは第1学年のもので見てみたい。尚、それぞれの教科のカッコ内の数字は、授業時間数の百分比である。

- 1, 宗教 (Agama) (13%) : a. コーラン b. イスラームの法理 (Fekih) と礼儀・教養 (Adab) : すべての事物は神アッラーによって造り出され、人類のために用意されたということを理解させる。人間は、アッラーに感謝する義務がある。身を清浄にして、キブラに向かって礼拝し、両親、唯一神と預言者ムハンマドを恐れ愛し、そして、その行いを見本とする。
- 2, オランダ語 (Nederlands) (29%) : a. 発音と語彙 b. 表現 c. 読解 ニューウェンフイス (Niewenhuis), ファン・デル・ラーク (van der Laak) 『オランダ語読本 (Nederlands Taalboek)』をテキストとして使用。
- 3, インドネシア語 (Indonesisch) (21%) : a.

- 实用教育(会話と理解) b. ラテン文字(ローマ字)での練習 c. 物語りの読解
- 4, 算術(Rekenen)(21%)
 - 5, 書き方(Schrijven)(8%): ラテン文字
 - 6, 絵画(Tekenen)(4%)
 - 7, 音楽(Zingen)(4%): オランダ語とムラユ語両方の歌(13)

このカリキュラムを見ると、宗教に関する時間数の割合が低いことに気づくであろう。普通教科の比重が大変高い。西欧式の教育を導入しようとするムハマディアの意気込みが感じられる。そして、オランダ語の時間数が多い。オランダ語を修得することが大変重要と考えられたわけである。次にムラユ語について。ムハマディアでは、1920年から発行された機関誌“スアラ・ムハマディア (Soera Moehammadijah ムハマディアの声)”(以後『SM』と略)において、最初はジャワ語を主体言語としムラユ語を従としていたが、やがてその地位は逆転し、ムラヤ語のみとなって行った。特に、1920年代後半はムハマディアがジャワを超えて全国的な組織へと脱皮していった時期であり、ジャワ語からムラユ語に切り替えなければジャワ以外の地域の人々を納得させることは困難であっただろうと思われる。そしてムラユ語のローマナイズ、このことがムラユ語の普及に大きな役割を果たしたであろうことは想像に難くない。

加えて、ムハマディアが取り入れたのは、西欧式の教育システムであった。現在、我々が当然と思っているある一定年次での入学あるいは卒業、クラスや学年制、そして卒業証書の授与、こうしたシステムは全て西欧近代社会の産物である。インドネシアの伝統的なイスラーム塾プサントレンは、西欧式教育システムとは全く別個のものであった。インドネシアのイスラーム社会が近代化するためには、西欧式の普通教育科

目と教育システムの導入が是非とも必要とされた。こうして、1920年代の後半には、ムハマディアの西欧式初等学校がジャワ及びそれ以外の地に建てられて行った。そして、それはムハマディア組織の全国化とも軌を一にしていると言えよう。

次に、第2級学校(Sekolah Klas II)について検討したい。これは、しばしば標準学校(Standard School)と呼ばれており、原住民語を教授用語とした。それ故オランダ語を数える教育機関と区別して、原住民式基盤(imheemschen grondslag)の教育機関とされ、その特色は中等機関に結び付かない、それぞれ独自の卒業生を送る組織とされた(14)とある。村落学校や文化学校とともに初等教育の出発点となった学校と言える。『SM』によれば、ムハマディア第2級学校は6年制で、第1学年においては、スダ語、ムラユ語、計算、書き方、図工、体育とイスラーム教が教えられている。第2学年の科目は同じ内容。第3学年からは地理学が登場し、語学ではスダ語の代わりにアラビア語が教えられた。第4学年では自然科学として動・植物学が登場している。高学年である第5学年では歴史(ジャワ史)と人体生理学が教えられ、最終学年では世界史が教授されている(15)。尚、第1級学校も存在しており、内容は第2級学校とほぼ同じであるけれども、ただ1つのヨーロッパ語が教えられたとある(16)が、詳細は不明である。第2級学校とムハマディア H.I.S.の間に挟まれて、殆ど機能しなかったのではないかと推測される。

それでは、連鎖学校に話題を転じよう。オランダ植民地政庁のもとで連鎖学校(Schakel School)が創設されるのは、1921年のことである。この学校は、村落学校や標準学校では原住民語が教授用語であり、オランダ語を教授用語

とする中学校には連携できなかったもので、この基盤の違う別系統の学校の橋渡しをするのが目的であった。原地式基盤の学校下級3年を終了した優秀者を入学させ、オランダ語その他を5年間履修させることによって、オランダ・インドネシア人学校卒業者と同一資格を与えた(17)、と言う。それでは、ムハマディヤ連鎖学校のカリキュラムについて『SM』に依り見てみることにする。ただし、前述のように植民地政庁による連鎖学校が5年制であるのに対し、ムハマディヤのそれは3年制である。

表1 ムハマディヤ連鎖学校カリキュラム

科 目	学年と時間数		
	I(学年)	II	III
イスラーム教(Adinoel Islam)	6	8	10
アラビア語会話(Spreken)	8	8	6
// 読解(Lezen)	6	4	4
// 翻訳(Vertalen)	1	1	1
オランダ語と文体(Ned. taal en stijl)	10	10	10
// 作文(Opstel)	1	1	1
// 書取(Dictee)	2	2	2
計算(Rekenen)	3	3	3
地理(Aardrijkskunde)	1	1	1
筆記(Schrijven)	1	1	1
図工(Teekenen)	1	1	1
ジャワ語とムラユ語(Bahasa Djawa dan Melajoe)	2	2	2
合 計	42	42	42

出所) Soeara Moehammadijah, Moehammadijah Bagian Taman Poestaka, Djokjakarta, 1930, P. 453.

授業は午前7時30分から始まり、40分授業で途中20分の休みを二回取り、午後1時に終了した。教師として、2名のオランダ語担当、1名の宗教担当がいた。そして、12才以上の生徒の入学は認めていない。更に、この学校では、オランダ政庁からの補助金は受けていなかった。加えて、男生徒はボーイスカウト組織“ヒズブル・ワタン(Hizubul Wathan 祖国の防衛者)”に、女生徒は女子組織“シスワ・プラヤ・ワニタ(Siswa Praja Wanita 女生徒連盟)”に加入することが義務付けられていた(18)。

ところで、ムハマディヤ H.I.S. は図1の西洋式教育のオランダ・インドネシア人学校と同種で、その上のミュロ学校、普通中学校へとつながったものであるが、連鎖学校は原地式教育の系統中、村落学校、標準学校から継続学校へと続いて来ており、ミュロ学校への橋渡しをしている。初等教育の段階で、このような複雑な系統となったのは、主として、経済的な理由から6～7年間の教育を受けさせることがなかなか難しいという事情による。ただ、ムハマディヤが目指したのは、初等～中等～高等という一貫した教育体系の確立とともに、西欧式教育システムの中に連同させること、言い替えれば、ムハマディヤ学校の卒業生がいつでもオランダ式学校に入学可能な状況を創り出すことであった。

(b) 中等教育

ムハマディヤ中等教育機関の一つは、ミュロ学校である。MULOは Meer Unitgebreed Lager Onderwije (中間学校)の略で、オランダ植民地政庁系(公立)の学校では必須科目としてオランダ語・英語・ドイツ語・一般歴史・科学・算数・絵画、選択科目でフランス語、その他東洋語(ジャワ語・スダ語・マレー語)が教えられていた(19)。一方、ムハマディヤのミュロ学校は、公立と同じく3年制であったが、最初の1年は予科(voorklasse)で、第1学年(eerste klasse)そして第2学年(tweede klasse)へと進級した。以下に述べるのは、バタヴィアのムハマディヤ・ミュロ学校の例である。先ず、ムハマディヤ・ミュロ学校の予科に入学出来るのは、次の様な条件を満たす者とされた。

- ムハマディヤの H.I.S. か連鎖学校の卒業生
- 公立の H.I.S. か連鎖学校の卒業生
- 特別の(particuliere) H.I.S. か連鎖学校の

卒業生で校長により主宰された入学許可試験の合格者

次に、第1学年に入学可能な者

- a. 公立ヨーロッパ人小学校 (Openbare Europees Lagere School) の卒業生
- b. ミュロ師範学校 (Kweekschool MULO) の入学許可試験の合格者
- c. 校長により主宰された入学許可試験の合格者 (入学試験科目はオランダ語と数学の2科目で、入学試験は8月の最初の週に実施)

入学後のカリキュラムは公立とほぼ同じであるが、宗教教育科目がもちろん教えられている。ただし、その比重は小さく、約1割強が普通である。この学校の入学金は五フロリンであるが、1カ年の授業料が、親の年収に応じて8段階に分けられているのが興味深い。則ち、年収1500フロリンから150フロリンまでを八段階に分け、24フロリンから7.50フロリンまでとしている。恐らく、親が様々な職種の子弟が入学したのであろうが、その内訳は明確でない。それから、生徒の数と出身地について触れる。生徒数は、予科が21名、第1学年が30名、第2学年が33名であり、3学年合計84名の内、所在地バタヴィア出身地は19名で全体の22%に過ぎず、あとはジャワ各地あるいは、スマトラ7名、セレベスとボルネオ各1名ずつと言うように、かなりの遠隔地から来ていた(20)。インドネシア人の場合、自分の出身地以外の所に出かけて教育を受けると言うのは、イスラーム塾プサントレン以来の伝統のようにも思える。管見の限りでも、ムハマディヤ学校においては、同級生がいろんな所の出身で、寮生活や下宿住まいをしており、集団生活や単身生活を厭わない。このことは、ムハマディヤのスクール・ネットワークが拡大するにつれて益々顕著となり、情報の交流が図られ、ムハマディヤ運動の全国的

な規模での発展に大いに貢献したと推測する。

さて、K.H.アフマド・ダフランは中等学校としてアル・キスムル・アルコ (Al Qismul Arqo) を1918年頃創設した。1921年にはアル・キスムル・アルコからホーヘレ・ムハマディヤ・スホール (Hoogere Muhammadiyah School 高等ムハマディヤ学校) と改称され、23年になるとクウェークスホール・イスラーム (Kweekschool イスラーム師範学校) となった。更に翌年、クウェークスホール・ムハマディヤ・プルンプアン (Kweekschool Muhammadiyah Perempuan ムハマディヤ女子師範学校) とクウェークスホール・ムハマディヤ・ルラキ (Kweekschool Muhammadiyah Lelaki ムハマディヤ男子師範学校) に分かれ、最終的に1932年、マドラサ・ムアリマート・ムハマディヤ (Madrasah Muallimiat Muhammadiyah ムハマディヤ女子師範学校) とマドラサ・ムアリミン・ムハマディヤ (Madrasah Muallimien Muhammadiyah ムハマディヤ男子師範学校) と改称された(21)。

例えば、男子師範学校の内容を見てみよう。これはイスラーム教師養成のための5年制の学校で、第2級学校やH.I.S.を卒業した12~16才までの生徒を受け入れている。教授科目としては、アラビア語とイスラーム学の外、普通科目の地理、数学、物理、天文学、生理学、教育学、そして、外国語としてオランダ語と英語が教えられた(22)。

一方、普通学校の教師を養成する機関として、師範学校 (Kweekschool) がある。こちらはムハマディヤ・ミュロ学校や公立のミュロ学校の卒業生対象で、現在の高等学校に相当する課程である。この学校では、教育学、オランダ語、英語、ドイツ語、フランス語(選択)、マレー語、アラビア語、地理、歴史、政治、数学、物理、化学、動・植物学、宗教学、家政、教育実習、

音楽、図工、書き方、体育などが授業科目としてあげられていた(23)。実に多彩な内容である。西欧式教育に力を注いだムハマディヤの姿勢が理解できよう。ムハマディヤの教育活動に特徴的なことは、ムハマディヤ学校の教員はムハマディヤ学校の卒業生で充足させるという原則を貫いた点である。また、その教育体系の特徴は、ムハマディヤ学校の教科内容がオランダ政府の公立学校のそれと連動していたため、いつでも乗り換えが可能であった事である。このため、ムハマディヤ学校に入学する生徒達は、公立学校の生徒達に対して何ら劣等感を抱く必要がなく、卒業後の進路もある程度保証されていたと言えよう。ムハマディヤ運動成功の謎を解く一つの鍵は、学校教育に求められると思われる。

上記の学校に加え、バタヴィアに現在の高等学校に相当するムハマディヤの普通中学校 (Algemeene Middelbare School) が1934年頃開校されている。この学校については、既に拙稿でふれているので(24)、ここでは割愛する。

最後に、1927年におけるムハマディヤ学校の種類と数を以下に示す。尚、カッコ内の文字で、西は西ジャワ、中は中部ジャワ、東は東ジャワ、マはマドゥラ、スはスマトラ、セはセレベス、ボはボルネオをそれぞれ表す。

ジョクジャカルタ(中)	師範学校	2校
	H.I.S.	3 //
	コーラン付連鎖学校	1 //
	コーラン付標準学校	5 //
	コーラン付国民学校	5 //
スラバヤ(東)	コーラン付H.I.S.	1 //
ソロ(中)	H.I.S.	2 //
	標準学校	4 //
バタヴィア(西)	H.I.S.	3 //
	師範学校	1 //
	標準学校	1 //

ブルウォケルト(中)	H.I.S.	2校
ブカロンガン(中)	H.I.S.	1 //
ブカジャンガン(中)	標準学校	1 //
	国民学校	1 //
ガールット(西)	標準学校	1 //
クラテン(中)	H.I.S.	1 //
	標準学校	2 //
ルマジャン(東)	H.I.S.	1 //
マディウン(東)	標準学校	1 //
	H.I.S.	1 //
パスルアン(東)	H.I.S.	1 //
ブミアユ(中)	H.I.S.	1 //
クトアルジョ(中)	標準学校	1 //
カリアンゲット(マ)	H.I.S.	1 //
トゥマングン(中)	H.I.S.	1 //
	連鎖学校	1 //
スマラン(中)	H.I.S.	1 //
クドゥス(中)	H.I.S.	1 //
マカッサル(セ)	H.I.S.	1 //
ブリタル(東)	H.I.S.	1 //
	連鎖学校	1 //
スラウィ(中)	H.I.S.	1 //
	標準学校	1 //
アディバラン(中)	H.I.S.	1 //
マニンジャウ(ス)	標準学校	1 //
スラゲン(中)	標準学校	1 //
アラビオ(ボ)	標準学校	1 //
ブレベス(中)	標準学校	1 //
バニユマス(中)	連鎖学校	1 //
プロボリング(東)	連鎖学校	1 //

(25)

それでは、上記の内容を1932年と比較するとどのようになるであろうか。

表2 ジャワとマドゥラにおけるムハマディヤ学校
(1927/1932)

学校の種類	1927年				1932年				総計		
	西	中	東	マ	西	中	東	マ			
国民学校	0	6	0	0	6	8	88	2	0	98	104
標準学校	2	16	1	0	19	1	23	2	2	28	47
連鎖学校	0	3	2	0	5	0	17	5	1	23	28
H. I. S	3	15	5	1	24	7	32	10	1	50	74
師範学校	1	2	0	0	3	1	3	0	0	4	7
MULO/ Normaal H. I. K.	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4	4

出所) 1932年の部分、Alfian, Muhammadiyah: The Political Behavior of a Muslim Modernist Organization under Dutch Colonialism, Gadjah Mada University Press, 1989, p. 190.

この表から窺えることは、1927年から5年間にかけてのムハマディヤ学校の急速な増大である。1920年代の後半から1930年代にかけては、ムハマディヤがジャワからインドネシア全域にその勢力を拡大した時期であり、教育活動の成功がその主要な原因の一つと考えられるが、この表はそのことを裏付ける証左と言えるのではなかろうか。表中にある Normaal H. I. K. (普通原住民師範学校) については、内容が良く分からない。

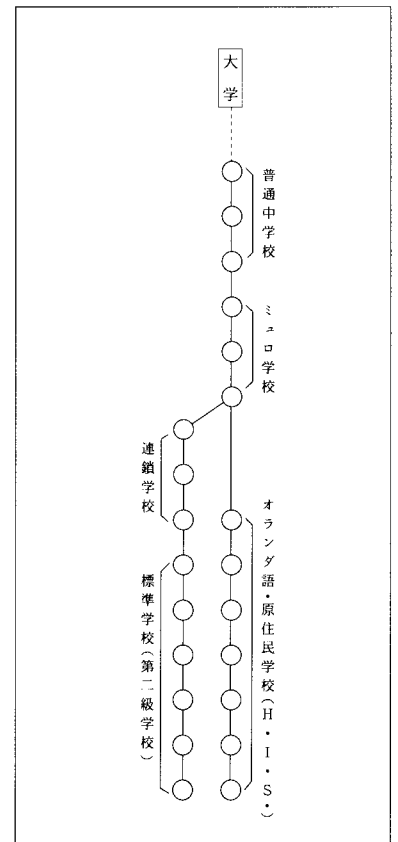
(c) 高等教育

1936年バタヴィアで開かれた第25回ムハマディヤ全国大会において、ムハマディヤ大学の設置が決定された。商・工 (commercieel-industrieel) 学部より成るこの大学は、“経済とテクノロジーについての問題に説明を与えることができる”人材の育成を目指したけれども、予算上の都合と忍び寄る戦雲 (太平洋戦争) のため結局まぼろしに終わった(26)。ムハマディヤ大学が設立されるのは、インドネシアが独立を達成して以後のこととなった。

おわりに

ムハマディヤ運動における教育活動の目標は、従来のイスラーム教育に西欧式の普通教育 (世俗教育) を導入し、近代世界に適応可能なムスリムの育成を目指すものであった。そして、ムハマディヤ学校での授業時間数の配分においては、普通教科の比重をより大きくした。更に、オランダ語を中心とした外国語の重視、あるいはムラユ (マレー) 語の使用等を通じて、ムハマディヤ学校の生徒達が公立学校に学ぶ生徒に対して引け目を持たないようにカリキュラムを組み立てている。加えて、小学校~中学校~高等学校~大学までの一貫した教育体系の確立を、ムハマディヤは図ろうとした。ここで、ムハマディヤ学校の系統を図示すると次のようになる。

図2 ムハマディヤ学校の系統



繰り返しになるが、標準学校へ行った場合ミューロ学校に入学するには連鎖学校を経ねばならず、オランダ語・原住民学校の生徒より就学年限が長くなるのは、標準学校でオランダ語を勉強していないためである。

加えて、もう一つ重要なことは、ムハマディア学校とオランダ植民地政庁立の学校謂わゆる公立学校とは連動しており、ムハマディア学校から公立学校へ、公立学校からムハマディア学校への転校が可能であった点である。このことは、都市の商人層あるいは都市のムスリム・インテリ層に歓迎され、彼らがムハマディア運動の支持基盤の中核となったと推測する。ただ、農村においては伝統的なプサントレンが多数存在しており、農民の支持を獲得していたので、ムハマディア学校の進出は極めて困難であったと思われる。

ともあれ、ムハマディアがオランダの植民地時代に作り上げた学校教育のネットワークは、ムハマディア運動を全国的規模で展開させるための重要な鍵の一つとなったことだけは確かなようである。最後に、ムハマディアの師範学校と国民学校については、不十分な解明のままに終わった。これらの点に関しては将来の課題としたい。

註

- (1) H. Mahmud Yunus, Sejarah Pendidikan Islam di Indonesia, Hidakarya Agung Jakarta, 1982.
- (2) Disusun oleh : Sudjoko Prasodjo, M. Zamroni, M. Mastuhu, Sardjono Goenari, Nurcholish Madjid dan M. Dawam Rahardjo, Profisi Pesantren : Laporan Hasil Penelitian Pesantren Al-Falak dan Delapan Pesantren Lain di Bogor, Lem-

baga Penelitian, Pendidikan dan Penerangan Ekonomi dan Sosial, 1974.

Zamakhshari Dhofier, Tradisi Pesantren : Studi tentang Pandangan Hidup Kyai, Lembaga Penelitian, Pendidikan dan Penerangan Ekonimi dan Sosial, 1982.

- (3) 西野節男『インドネシアのイスラム教育』勁草書房 1909年.
- (4) 小林寧子「19世紀末のジャワのイスラーム教育とプサントレン」(『アジア経済』 第29巻10号, 1988年10月).
西村重夫「インドネシアにおけるイスラーム教育の構造—小学校用教科書の内容分析を中心として—」(『九州大学教育学部紀要』 第34集 別冊1989年3月).
- (5) 戸田金一「インドネシア教育史」(梅根悟監修『世界教育史体系6 東南アジア教育史』所収 講談社 昭和51年).
- (6) 西野節男 前掲書 (1909年) 155ページ.
- (7) 戸田金一 前掲書 (昭和51年) 73ページ.
- (8) 戸田金一「オランダ植民地時代とスカルノ体制下のインドネシアの教育」(阿部宗光編『フィリピンとインドネシアの教育開発』所収 アジア経済研究所 1971年) 194ページ.
- (9) 戸田金一 前掲書 (昭和51年) 74ページ.
- (10) 戸田金一 前掲書 (1971年) 196ページ.
- (11) Soeara Moehammadijah, Moehammadijah Bagian Taman Poestaka, Djokjakarta, 1925, p. 8.
- (12) Berita Tahoenan Moehammadijah Hindia Timoer, 1927. より作成.
- (13) Moehammadijah Bundel, Consulaat HB Moehammadijah Daerah Atjeh, 1937, pp. 23-24.
- (14) 戸田金一 前掲書 (1971年) 193ページ.

- (15) Soeara Moehammadijah, op. cit., 1924, pp. 58-62.
- (16) Ibid., p. 50.
- (17) 戸田金一 前掲書 (1971年) 196ページ。
- (18) Ibid., p. 454.
- (19) 戸田金一 前掲書 (1971年) 198ページ。
- (20) Jaarboek 1934-1935 van de Middelbare school der Vereeniging Moehammadijah te Batavia-Centram, pp. 20-29.
- (21) Amir Hamzah Wirjosukarto, Pembaharuan Pendidikan dan Pengadjaran Islam jang Diselanggarakan oleh Pergerakan Muhammadiyah dari Kota Jogjakarta, Pembaharuan Pendidikan / Pengadjaran Islam Gondomanan IV/305, Jogjakarta, 1962, p. 72.
- (22) Soeara Moehammadijah, op. cit., 1937, p. 31.
- (23) Jaarboek 1934-1935, op. cit., p. 10.
- (24) 拙稿「ムハマディヤ・バタヴィア (プタウイ) 支部の成立と発展」(今永清二編『アジアの地域と社会』所収 勁草書房 1994年) 239-240ページ。
- (25) Solichin Salam, Muhammadiyah dan Kebangunan Islam di Indonesia, N. V. Mega Djakarta, 1965, pp. 98-99.
- (26) 拙稿 前掲書 (1994年) 240ページ。